

提出意見の概要

【北陸信越ブロック】

○一般参加区分（氏名）

- ・丸山 康子 2
- ・広野 修一郎 3

（敬称略）

8月29日説明・公聴会（富山会場）
当日表明する意見の概要

（ふりがな）まるやま やすこ
氏 名 丸山 康子

（団体参加の場合は団体名）

【当日表明する意見の概要】

今回の取りまとめでは、主に入場制限の強化をすることで、ギャンブル依存症対策ができるという考え方になっています。入場制限はある程度の抑止力になりますが、それだけではギャンブル依存症は防げません。

私の息子はギャンブル依存症に罹患しました。当初はギャンブル依存症という病気を知らず「これが最後だから」と言う息子の言葉を信じ何度も借金の尻ぬぐいをしました。症状はどんどん進行し悪化し、暴言、脅迫もひどくなり、困り果て、息子の掛かりつけの医師に相談に行きましたが、依存症に関する具体的な提案は貰えませんでした。市役所、精神福祉保健センターなどへ出向き、電話相談もしましたが、そこでも適切なアドバイスを貰う事が出来ず「事例がない」などとたらい回しにされました。その内に金を渡さないなら「殺す」と脅しがエスカレートしていきました。怖くて警察へも相談に行きましたが「暴言だけで暴力はない」と言われ、なんの打開策もなく、誰も助けしてはくれませんでした。

結局インターネットなどで必死に探し、たどり着いたのが民間の家族当事者の支援団体でした。遠く離れた東京の支援団体の代表の方が、新潟まではるばる新幹線に飛び乗り息子に会いに来てくれ、治療に繋がるよう説得してくれました。そして息子は山梨県にある民間のギャンブル回復施設に1年半入寮し、現在は自立を果たしています。

私もその後依存症者の家族会を立ち上げ、同じ苦しみを抱えた方々を支援する側にまわっております。

このように、行政だけは支援の限界があり、リスクの高いものには介入してくれません。また管轄の壁があり、県をまたいで支援先に繋げるようなこともできません。ギャンブル依存症は誰もが掛かりうる病気なのです。カジノを建設するのなら、入場制限等の規制や相談窓口の設置のような入口対策に終わらせず、依存症に罹患してしまった人を助けてください。特に行政や医療では対応しきれない、重篤な案件に対し、日々見返りを求めず奔走している民間の団体や回復施設への助成などの手立てが必要不可欠です。

家族のギャンブル問題で犠牲になる、老親、妻や子供たちといった弱者を救い出す支援体制こそ整備すべきです。その為にはカジノの納付金の使途を広く公益に使うという規定のみならず、一部をギャンブル依存症者の回復支援に充てるという事を明記すべきと考えます。

8月29日説明・公聴会（富山会場）
当日表明する意見の概要

（ふりがな）
氏名
（団体参加の場合は団体名）

ひろのしゅういちろう
広野修一郎

【当日表明する意見の概要】

十年程前より、個人として、依存症、特に、ギャンブル依存症（以後GDと表記）について、強い関心を持っております。

この度は、昨年成立したIR法案についての公聴会の機会に、「GD対策、特に脳科学分野での、GDの研究推進」についての観点から、意見を述べさせていただきます。

IR設置に伴うカジノによるGD増加の恐れが指摘されておりますが、（以下私見ですが）

- ・設置個所の数や、現場のみでの体験。 ・入場料や法規制。 ・海外には既存。等の理由から、（賛成ではありませんが）設置による直接の影響は、多くはないのでは？、と推測します。
- ・むしろ、 ・身近にあり ・時間帯を問わず ・独りで行ける・リスク、リターンの大きさ
- ・GDの自覚が無い等、現存の遊戯施設と、それと重なる公営競技などでの問題が重大なようです。

さて、私は、IR法成立と共に、徹底したGD対策を（勿論、財源確保も含め）望みます。
・現状のGD対策は、予防・相談・治療・等、対症療法や、対策が主で、それぞれに大変な努力をされておられますが、それ以外の、より原因療法的な対策の研究も必要である！と思います。

例えば、依存症のメカニズムの研究、特に脳科学(神経科学)領域と連携した研究です。

2017年4月、京都大学の先生方が「ギャンブル依存症のメカニズム」という、脳の前頭葉部位の活動と、GDの関係についての論文を、発表されました。

私は、以前より、現状のGD対策と併せて、脳科学の研究との連携を、期待しておりました。この分野の研究が、もっと早くから進められていれば、基礎研究から臨床研究、そして治療や、当事者への診断と自覚にも繋がり、結果としてGD対策に役立っていたのでは？と思います。

早急に、GD対策に、脳科学(神経科学)の研究を加えて頂くことを、強く望みます。

本来、趣味や嗜好は、人間が楽しく、潤いを持って生きること、とても大切なツールのはずです。しかし、依存症は、それを自分の意志で止めることは(今、現在は)、出来ないようです。

特にGDは、金銭が対象となる為、犯罪や事件等、当事者も周りも不幸に繋がることも多い、大変に恐ろしい病気です。

また、GDの、脳科学との関連した研究を進めることにより、他の依存症対策にも役立てることも可能かもしれません。(仮説)

そして、昨今、懸念されております、脳が未発達、また成長過程の子供さん達の、ゲーム依存やネット依存対策にも、役立つ(仮説)ことを期待します。

以上